

## 概要

- 京都府中丹地域は府のブランド品目である万願寺甘とうの産地だが、土壌病害対策として利用されている台木品種は強勢台木ではなく、夏季の草勢低下等、収量増加のボトルネックとなっていた。
- 近年の猛暑による尻腐れ果の多発等により夏季の可販果収量低下が報告されており、**高温条件下の安定生産が課題**
- これらの解決に向け、近年育成された強勢台木品種を用いた苗を府研究機関と現地実証ほで試験栽培。接ぎ木親和性、生育・収量性、耐病性等を評価した。
- 令和6年度の結果では、夏季の尻腐れ果率が試験台木品種で低下。また、病害の発生については、慣行品種と試験品種で大きな違いは確認されなかった。
- 試験結果を受け、産地では強勢品種へ数年以内に切り替える方針
- 年次変動を確認するため継続して栽培試験、実証ほ設置を実施。また、今後は露地栽培や、仕立て方法や施肥設計についても検証が必要

## 具体的な成果

### 1. 強勢台木品種による夏季の収量性向上

- 府研究機関調査にて、7～8月の尻腐れ果率が新規台木品種で低下（慣行品種‘台パワー’：25.8%、試験品種‘台パワーZ’：20.0%、試験品種‘グランバギー’：18.5%）
- 現地実証ほ、府研究機関いずれにおいても可販果収量が試験台木品種で増加（実証ほ（9月末まで）‘台パワー’：7.9 t/10a、‘台パワーZ’：8.9 t/10a、‘グランバギー’：10.0 t/10a）

### 2. 品種特性の評価

- ‘京都万願寺2号’との接ぎ木親和性は問題なかった。
- 生育特性は品種間での差は見られない。
- 耐病性については、令和6年産は大きな違いが確認されなかった。

可販果収量と尻腐れ果率の比較（府研究機関）

台木品種	6月		7月		8月		9月		10月		11月		合計 可販果 収量
	可販果 収量	尻腐 果率											
グランバギー	1.2	0.1%	2.0	7.7%	1.5	18.5%	1.3	14.8%	1.3	1.6%	1.2	0.1%	8.4
台パワーZ	1.4	0.0%	2.1	7.6%	1.4	20.0%	1.1	16.4%	1.7	1.6%	1.4	0.0%	9.0
台パワー	1.2	0.1%	1.7	14.9%	1.2	25.8%	1.3	16.3%	1.4	3.2%	1.5	0.2%	8.2

※可販果収量は t/10a、尻腐果率は尻腐果数/総果実数×100



新規台木の接ぎ木苗



実証ほ生育調査

### 3. 品種切り替えへの取組強化

- 試験結果を受け、生産者部会協議会にて数年以内に強勢台木品種に切り替える方針とした
- 令和7年産は‘グランバギー’苗を試験導入する生産者が増加（令和6年度：9戸→令和7年度：172戸予定）

## 普及指導員の活動

令和6年度～

- **強勢台木品種の実証ほを設置**し、生育状況や収量性、現地での耐病性を評価。
- 府研究機関と協力し、研究機関内と現地実証ほの結果を検証。試験結果の概要を取りまとめ、試験栽培の拡大に向けた生産者向け品種説明会を実施。
- 試験結果を元に、暫定版の施肥設計を作成、配付。

## 普及指導員だからできたこと

- 生育調査データや生産者への聞き取り内容をもとにした関係機関との意見交換により、今後の方針案を決定。
- 新品種説明会を開催し、試験結果に基づいた特性等を伝え、生産者の新規品種に対する不安の解消に努めた。

京都府

## トウガラシにおける高温耐性のある複合病害抵抗性強勢台木の栽培適性確認

活動期間：令和6年度～継続中

### 1. 取組の背景

京都府中丹地域は府のブランド品目である万願寺甘とうの産地であるが、青枯病等の土壌病害対策のため接ぎ木に導入している抵抗性台木品種が強勢台木ではないため、夏季の草勢低下等、収量増加のボトルネックとなっていた。

特に、近年の猛暑による尻腐れ果の多発等により夏季の可販果収量低下が問題となっている。

### 2. 活動内容（詳細）

課題の解決に向けて、近年育成されたピーマン用強勢台木と接ぎ木した苗を府研究機関と普及センター、JAで連携して試験栽培し、接ぎ木親和性、生育特性、収量性、耐病性を評価した。

供試品種：台木 試験品種①‘台パワーZ’（農研機構育成）  
試験品種②‘グランバギー’（タキイ種苗育成）  
慣行品種 ‘台パワー’（農研機構育成）  
穂木はいずれも‘京都万願寺2号’（京都府育成）

①府研究機関での栽培試験（京都府農林水産技術センター農林センター）

- ・上記3品種を用いて栽培試験を行い、接ぎ木親和性、生育特性（主枝節数、草丈等）、収量性（可販果収量、尻腐れ果率※等）、病害発生状況等を調査

※尻腐れ果率：総果実数における尻腐れ果数の割合（％）

②実証ほの設置（京都府中丹東・中丹西農業改良普及センター）

- ・生産者ほ場にて上記3品種を用いて試験栽培し、生育特性や現地での土壌病害発生状況、収量等を比較

### 3. 具体的な成果（詳細）

1 新規台木品種による夏季の収量性向上

- ・府研究機関での栽培試験では、7～8月の尻腐れ果率が試験品種2品種いずれにおいても低下（‘台パワー’：25.8%、‘台パワーZ’：20.0%、‘グランバギー’：18.5%）
- ・現地実証ほ、府研究機関いずれにおいても可販果収量が試験品種で増加（実証ほ（9月末まで）‘台パワー’：7.9 t/10a、‘台パワーZ’：8.9 t/10a、‘グランバギー’：10.0 t/10a）

## 2 品種特性の評価

- ・接ぎ木親和性は、試験品種 2 品種いずれにおいても穂木‘京都万願寺 2 号’の間で問題はなかった。
- ・生育特性（主茎節数、草丈等）については、品種間で大きな差は見られなかった。
- ・耐病性については、実証ほでの聞き取り結果ではいずれの品種にも大きな違いが確認されなかった。

## 3 品種切り替えへの取組強化

- ・上記試験結果を受け、中丹地域の生産者部会協議会で、数年以内に強勢台木品種に切り替える方針となり、令和 7 年産は‘グランバギーの’現地試験栽培を拡大し、希望する生産者には栽培面積の 50%を目標に栽培することとなった。（試験栽培生産者数 令和 6 年度：9 戸→令和 7 年度：172 戸予定（面積ベースでは産地全体の 44%））

## 4. 農家等からの評価・コメント

- ・可販果収量は試験品種 2 品種の方が優れていた。栽培中も試験品種 2 品種の方が着果率がよく、強勢台木の特徴が出ていると感じた
- ・‘グランバギー’は初期に落花が非常に多いことや、樹勢が強く剪定等管理作業に時間がかかったため、品種に応じた栽培管理体系を確立してほしい
- ・病害抵抗性は、試験品種 2 品種とも慣行品種の‘台パワー’と同等、もしくはやや優れるため、次年度も栽培したい

## 5. 普及指導員のコメント（所属・役職・氏名を記入）

- ・試験品種である‘台パワーZ’及び‘グランバギー’とも可販果収量が増加し、着果数の増加により草勢が低下しやすい夏季の収量低下を回避できると考える
- ・‘グランバギー’は特に夏季の尻腐れ果発生率が低いため、高温対策としては有効と考える
- ・露地栽培での知見がないため、試験栽培が必要  
（農林水産部農産課 主任；農業革新支援専門員 黒須 暖加）

## 6. 現状・今後の展開等

- ・年次変動の確認のため、継続して試験栽培を府研究機関、現地ともに実施
- ・試験栽培に加え、令和 7 年度は‘グランバギー’への切替を見すえ、品種に適した仕立て方法や施肥設計の検討を実施予定
- ・病害抵抗性は、激発ほ場での効果確認のため、複数年の調査・評価を行う。
- ・生産者部会協議会にて、数年以内に強勢台木品種に切り替える方針とした。